2023/09/22 開催　いけんひろば～こども家庭庁予算について～
いけんのまとめ（A テーマ・B テーマ）

１班（小中学生／A テーマ）

【テーマ１：概算要求全体像】

〇質問１：こども家庭庁予算は、4.8兆円となっていますが、みなさんのために使われている実感はありますか。

- （実感の程度について。オンラインツールの挙手ボタンで反応してもらった結果、3/4 人が「あまり実感がない」と反応）
- 4.8兆円が自分たちのために使われている実感はない。お金を管理しているのはお母さんだから。児童手当は、お母さんにとっては身近かもしれない。
- 4.8兆円が自分たちのために使われている実感はない。保育園や学童のために予算が使われていることは、今回のいけんひろばの事前勉強会で初めて知った。今も予算が何かに使われているかもしれないが、実感はない。
- こども家庭庁が活動しているという実感が無い。学校などでそういった話があがってこないし、いけんひろばについてもこども家庭庁のイベントを通じて知った。もう少し時間が経ったら実感できるかもしれない。

〇質問２：こども家庭庁の予算でやっている事業を知ってもらうために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- 学校や役所にチラシを置くのが良いと思う。学校の許可を得て、配ったり、黒板に張り付けたりするのがいいと思う。
- こども家庭庁の予算を使って進めている取組を知ってもらうためには、YouTube や TikTok のスキップができない広告に載せるのが良いと思う。
- 鉛筆や消しゴムにこども家庭庁について色々書いて、学校で配るのが良いと思う。
- 小学生にとって、情報に触れる機会は学校が一番多いと思うので、学校で個人にプリントを配るのがよいと思う。実際に学校で配付された文部科学省についてのプリントを持っている。文字で説明があるプリントを作ると良いと思う。
- こども家庭庁のカラフルなイラストや写真をチラシに掲載して「こどもの意見を集めています。あなたも参加してみませんか？」という言葉とともにチラシがまとまっていると「お母さんに行きたいと言ってみようかな？」と思う。
- 身近なところで予算を使って何かを企画して「実はこの事業はこども家庭庁がやっているんですよ」と伝えたら、驚かれて多くの人に知られると思う。
- 保育園にはママ友がいるため、保育園に通っているこども向けの施策を行えば、親同士で情報が広まるのではないか。

〇質問３：こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。

- こども未来戦略方針に沿ってこども予算の充実に取り組むことについて「こどもまんなか」という考え方は素晴らしいけど、こども一人一人に向き合うのは本当に難しいと思う。
- 自分は小学生で、未来戦略マップには高校生の年代まで色々と書いてあるため、あまり想像ができない。
- 自分は元々いじめられっ子だった。そのような時に対応しない学校があるようなので、対応しない学校の教師の教育が大切だと思う。私の妹は先生が怖くていじめられている状況を言えない状況で、まだいじめられている。先生に言いやすい雰囲気や、個人面談があれば、言いやすいのではないか。
- 市民に聞き込み調査をして、今書かれていない戦略が出てくれば、それをやってみるといいのではないか。意見を言いやすい場所は人それぞれ違うから、みんなはどこだと言いやすいか、聞いてみるのがいいかも。
- 学校とこども家庭庁をオンラインで繋げたら、意見を話しやすいと思った。
- 学校のクラスの中が一番言いやすいと思う。仲良しの友達もいるから。
- 暴力・いじめがない学校がいいと思う。自身の担任の先生の話で、カンニングか何かの悪いことをした生徒がいた時、机を蹴ったということもあった。

【テーマ２：こどもの居場所づくり】

〇質問１：（今回の予算要求の中で）広報啓発に関して、どのような広報であれば、効果的だと思いますか（行きたくなる、伝わりやすいなど）。

- みんなに知ってもらうためには、多くの人が見る場所が良いと思うので、テレビ広告等で紹介したらいいと思う。
- 自分が住む県のとあるこども食堂は、テレビ番組でも紹介されたのだが、小学３年生までであればお菓子が無料で貰える。「やったー」と思えるので、行きたくなるだろう。
- Youtube や TikTok 等、こどもが楽しんで見る場所が良いと思う。姉は TikTok が好きで、自分は友達とよく Youtube を見る。
- みんなに知ってもらうためには、小学生がよく見る Youtube においてチャンネルを作って発信して、こども家庭庁に関することを紹介したら良いと思う。
- 自分も好きな Youtuber がいる。
- 最近は TikTok 等のアプリがあるが、よく使うアプリに広告が出てきたら広まると思う。Youtube を見ている人が周りには多い。Youtube の広告はスキップできるので見ない人がいるが、有名な Youtube とのコラボの広告や、アニメっぽい広告で告知して、さりげなく織り交ぜたらいいかもしれない。

〇質問２：みなさんはこどもの居場所を増やしていくために、国としてどのような支援があると良いと思いますか。

- 障害者が一緒に働いている施設がいっぱいある。障害者の人も喋ったり楽しんだりしたいと思ってい

ると思う。障害者にとっては障害があることが普通。自分にとっても障害者の人は普通の存在。だけど、最近はもうないかもしれないが、会社の人が「目が見えないなら、仕事しなくていいよ」というようなことがあるのかもしれない。誰しも差別をしないように、障害者がしっかりと働けている会社に、国がお金を支援したらいい。

- ちょっとした公園でこどもが怖い思いをしない場所があるとよい。
- 実際の場所だけでは無い場所も居場所になると思う。自分の学校では、４年生から学童に行けなくなる子がいて、家で留守番をしている子も多いので、オンラインで集まれる場所があるとよい。
- 地域の中で自分の居場所があると良い。自分の居場所がいつでもあると安心できると思う。
- 楽しい場所だったら行きたいなという気持ちが湧いてくると思うので、楽しいなと思える場だといいと思う。絡みやすい人がいたら良い。

【テーマ３ ：こども食堂支援】

〇質問１ ：こども食堂を知っていますか。

- （「こども食堂」という単語を知っているかどうか。オンラインツールの挙手ボタンで反応してもらった結果、4/5 人が挙手）
- （「こども食堂」がどんなところ知っているかどうか。オンラインツールの挙手ボタンで反応してもらった結果、2/5 人が挙手）
- こども食堂は、家がなくて食べ物が無いこどもに、ご飯を無償で提供している場所だと思う。
- こども食堂では、家では宿題をする時間がないこどもが宿題や勉強をすることもできる。

〇質問２ ：実際に、こども食堂に行ったことはありますか

- （「こども食堂」に行ったことがあるかどうか。オンラインツールの挙手ボタンで反応してもらった結果、3/5 人が挙手）。

〇質問３ ：こども食堂は、どのような場所にあると行きやすいですか

- 家の近くにあると行きやすくて楽だと思う。こども食堂のカレーの味が好きで、家の近くにできたので嬉しかった。週３回やっており、自分はその頻度で満足している。
- 駅や大型ショッピングモールの近くにあると行きやすい。
- 自分の家の近くにこども食堂が２箇所ある。１つはいつ開いているのか、誰が行っていいのか分からない。情報を地域の人に教えて欲しいと思っている。もう１つには自分も行ったことがある。月に１回お弁当を配っていて、実際に行ってみたら、そのお弁当は美味しくて、地元のおにぎり等が入っており良かった。
- こども食堂は誰でも行っていいものであるが、それを知らない人が知った時には「この人は親がいないんだ」と思われてしまうので、あまり人目に付かない場所にあった方が行きやすい。

〇質問４：どのようなものが必要ですか。（どのようなものが配布されると良いですか。）

- 出てくるご飯はこどもに人気があるものだとよい。地域の食材を地産地消できる料理を作ってほしい。
- 先日、学校からこども食堂のお祭りのお知らせをもらい、そのお祭りへ友達を誘って参加した。学校の先生も来ており、障害者も一般の人も楽しめる場所であった。お祭りなので、くじ引きができたり、サイコロの出た目に合わせてお菓子がもらえたり、ポップコーンが無料でもらえたりして、楽しめた。
- こども食堂でフードバンクを行って、定期的にフードバンクで集まった食べ物を無料で配布するイベントを開催するとよいのではないか。
- 健康のために野菜ジュースや、他にも問題集・マンガがあると良いと思った。
- お弁当もそうだが、主食であるお米やこどもが喜ぶお菓子もあると良いと思う。
- いまやりたいこともやれる空間だと良いと思う。一つのものだけではなく、正反対のものも置いておいて、いろんなことを楽しめる場所だと良いと思う。お菓子があれば行きたいし、文房具があれば便利だと感じる。
- キャラクターやアニメグッズがあれば、自分も行ってみたいと思う。
- 前の人の意見を聞いて思いついたが、小さい子はガチャガチャが大好きなので、設置すると良いと思う。月毎に中身が変わると良い。

２班（中・高生／Ａテーマ）

【テーマ１：概算要求全体像】

〇質問１：こども家庭庁予算は、4.8 兆円となっていますが、みなさんのために使われている実感はありますか。

- 実感はないが、中学生とかに月１万円給付しているというニュースを聞いた。嬉しい。
- 私も同じようなニュースを見たことがある。ただ、自分のために使われている実感はない。
- 私も実感はない。今回資料でもらった「こども未来戦略方針マップ」を見て、お金が使われているんだなと思ったが、自分に直接使われていると思ったことはない。
- 小学校では教科書が無償で提供されるため自分にお金が使われている実感がわくが、給付金は銀行に振り込まれているだけで身近ではないため、直接的に届くものや普段使うものにお金を使ってもらえると実感がわくと思う。

〇質問２：こども家庭庁の予算でやっている事業を知ってもらうために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- こどもに、給付金の使い道についてアンケートを取ってみて、その結果をこどもも大人も確認することで、こども達の給付金の使い方を理解できるのではないかと思うため、このアンケートをやってもらいたい。「自分のために使われているという実感がありますか」と聞いて「ない」の回答が多ければ、こどもに給付金の実感がないことを大人も知ることができると思う。
- 予算は限られているため、有効に使うことが大事だと思う。今年のニュースになっていた、こども家庭庁と J リーグがコラボして、こども達が優先してサッカーを観戦できるようするという政策について、この政策の目的が分からないことは問題だと思う。この目的のためにいくら予算を使って、こんな活動をしていますよ、と戦略的に広報することで、大人もこどもも政策を理解できるようになると思うため、目的をしっかりとさせた分かりやすい広報が大切だと思う。
- SNS は広報の手段として外せないと思う。こどもいけんぷらすについても、SNS で発信されているが、自分の周りには、こども家庭庁のアカウントがあること自体知らない人が多い。朝のテレビニュースなどで広報してもらうことが、一番分かりやすいのではないかと思う。テレビがある家庭は多いと思うため、メディアの力を使い、朝のテレビニュースなどで取り上げてもらえるように予算を使うのはどうか。どのチャンネルで取り上げてもらうのが良いのかについては、NHK は大人が多く観るなど、チャンネルによって観る年齢層が異なると思うため、民間テレビのニュースに出演している人にアピールしてもらうのが良いのではないかと思う。
- 以前、民間テレビ局の番組に総理大臣が出演していたが、そのような形で広報をしたら観てくれる人が増えるのではないか。また、電車の中のデジタル広告で宣伝したり、「詐欺に注意」などの目立つ広告を色々なところに貼ったりするのも良いと思う。

〇質問３：こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。

- 少子化が進んでいる中で、どのようにこどもを増やしていくか、また、増やせなくともどのように少子化のスピードを緩やかにしていくかを考えた時に、子育ての経済的負担がこどもを産まない一番の理由に挙がっていたりもする。たくさん働いて、たくさん稼いでいるからこそ支援を受けられないと、それが少子化に拍車をかけてしまうのではないかという危機感を感じているため、所得制限のあり方を今後よく考えていく必要があると思う。所得制限をなくすことで、少子化を緩やかにすることは今後重要になってくると思うし、それが経済的な発展に繋がっていくこともあり得ると思う。所得制限をなくすためには財源が必要になるが、所得制限のあり方については、様々な意見を聞きながら早急に議論すべきだと思う。現状のままでいくのか、所得制限をなくして、新たなサービスの形としていくのかは早く答えを出した方が良いと思う。
- 家庭やこどもにお金がかかる大きな理由の１つとして、こどもの塾の費用が挙げられると思うが、塾なしで高校や大学に進学出来たら、親の負担が軽くなると思う。オンラインのツールを使って、学校に来ない人も授業を受けられるようにしたり、学校を欠席しても、出席している人と成績の差がつかなくなるようにしたりすると良いと思う。

（テーマ担当者との質疑）

- 東京 23 区の全ての学校において、給食費を無償化することは可能か。
  - 担当課）財源も必要になるため、すぐに実現するのは難しいと思う。
- 給食費が無料になると、親の負担が少なくなる。また、実際私の区ではこの間給食費が無料になり、学校でプリントが配られたため「無料になったの！最高！」と実感がわいた。このように、こどもにとっても、国からお金を使ってもらっていると実感がわくので良いと思う。東京都港区では、来年の中学３年生になるこども達がシンガポールに行くことになっている。港区は区のお金が余っており、英語も学べるからとシンガポールへ行くそうだが、そのお金を他のお金のない区に寄付して給食費を無償にすることはできないのか。
  - 担当課）区や市ごとで様々な対応がある。議会で話して決めることになるため、私からは明言できないが、区や市ごとの対応としてはあり得ると思う。
- 給食費やこどもの医療費の無償化は、市町村が独自で進めているが、これらの無償化を国主体で行うことは難しいのか。また、所得制限が１つの壁になっていると思うが、制限をなくすことは難しいのか。そして、所得制限についての議論はされているのか。
  - 担当課）財源の問題にもなるため、最大限国民の声を聞いてやっていこうとなっているが、今後についても、国民の声を聞いて、国会で議論した上で決めていくことになる。

【テーマ２ ：こどもの居場所づくり】

〇質問１ ：（今回の予算要求の中で）広報啓発に関して、どのような広報であれば、効果的だと思いますか（行きたくなる、伝わりやすいなど）。

〇質問２ ：みなさんはこどもの居場所を増やしていくために、国としてどのような支援があると良いと思いますか。

※テーマ２の質問１と２はまとめて意見を交換した。

- 今年の５月、今通っている中学校に、生徒が放課後に集まれる場所ができた。そこでは、学校の先生以外の大人と、内申点を気にせず遊んだり話したりすることができる。内申点を気にしなくてはいけない場所だと、安心して過ごすことができないが、そこでは内申点を気にせずに過ごせる。毎週火曜日にやっており、ジェンガなど自分の好きなことや自分のやりたいことができて過ごしやすい場所になっている。
- 私の住んでいる地域では、幼児や小学校低学年が遊べる場所は多いが、中学生や高校生の居場所が少ないと感じる。同じ学年くらいのこどもが集まって、自分のしたいことができるところが居場所だと思う。中学生・高校生一緒の場所でも良いし、中学生なら中学生で分けられた場所があるのも良いと思う。自分の好きなゲームをしたり、地域のために自分がしたいと思ったことがすぐできたりする場所があったりすると良いと思う。
- 私の住む地域では、あまり知られていないが「森の学校」というのがある。森を所有している人が敷地を開放してくれて、その森の中で遊ぶことができる。そこでは、小学生・中学生を問わず全員遊べる。毎週月曜日にやっていて、私もよく参加する。私はもともとそんなに外に出て遊ぶのが好きではなかったが、森の学校では周りの人が親切で、ポジティブな気持ちになれるため、色々なことに挑戦しやすく居心地が良い。同年代のこども達は少ないが、自分とは違う世代である小学生や高校生などから褒められることで、モチベーションになる。
- 私の地元では、高校生や中学生が勉強できる場所が市の施設として用意されており、そこでテスト勉強をしている学生が多くいる。一方で、小学生の学びや遊びの場が少なくなっている。そこで、私は今年の８月頭に小学生の居場所を開いてみた。小学生が 40 名程度集まってくれて、高齢者の方がこども達の宿題を見てくれた。こども達の親からは「すごく助かるよ」と言ってもらえた。小学生でも中学生でも、こどもの居場所は必要なのだなと実感した。去年の 11 月に竹馬作りの会を開いた時には、あまり人が集まらなかったため、今回の小学生の居場所を開くにあたっては、カラーのチラシを回覧板に挟んで目立たせ、中高生が集まる場所にチラシを置かせてもらうことで、多くの人の目に触れるように工夫した。高齢者の方に回覧板のチラシで案内をしたり、親しくしている周りの高齢者に声をかけたり、地域のコミュニティセンターで働いている高齢者にも声をかけたりした。
- 学校にゲームなどを置くことはできないのか。例えば、テレビやゲーム機など。私の学校にある放課後の居場所は楽しいが、人が集まらなかったり、すぐに帰ってしまう人がいたりするため、盛り上げるため

にゲームなどを置けないのかなと思った。

- 私が知っている特別学校のような学校では、休み時間にゲームができると聞いたことがある。学校に行きたくない理由として、ゲームをしたいからという人もいるらしく、学校でもゲームができることで、学校に行きやすくしていると聞いた。
- ゲームがあることで学校に行きやすくなるなら、効果的だと思う。

【テーマ３：こども食堂支援】

〇質問１：こども食堂(しょくどう)を知っていますか

〇質問２：実際に、こども食堂(しょくどう)に行ったことはありますか。

※テーマ３の質問１と２はまとめて意見を交換した。

- 私の住んでいる市区町村には、高齢者施設に行き、高齢者と触れ合いながらこども食堂をやるという企画がある。こども食堂をやる前に高齢者と触れ合うことができるため、この企画の参加者は、高齢者施設で働いている職員にも興味を持つかもしれないと思った。今介護士が不足しているとのことだが、このような企画によって、将来介護士のなり手が増えるのではないかと思う。
- 私の地域には、こどもの居場所として、寝泊りができるこども食堂がある。寝泊りするための条件については詳しくは分からないが、家ではない居場所としてこども食堂がある。お金はかかると思うが、安い値段で泊まれると思う。

〇質問３：こども食堂(しょくどう)は、どのような場所にあると行きやすいですか。

〇質問４：どのようなものが必要ですか。（どのようなものが配布(はいふ)されると良いですか。）

※テーマ３の質問３と４はまとめて意見を交換した。

- こども食堂はどこにあるかが分かりづらいため、こども食堂の近くに住んでいる人も住んでいない人も、こどもがいる人もいない人も含めて、全世帯にチラシを配ると広がると思う。
- 私の住んでいる地域では、こども食堂への関心が薄く、行ったことがある人も全然身近にいない。どういうことをしているか分からないが、こども食堂について少し調べてみて、災害があった時用に、備蓄用の水や保存食などを配ったら良いのではないかと思った。実際に私自身はこども食堂に行ったことはないが、私の知り合いがこども食堂を経営しているため、少し知っている。
- 私の住んでいる地域では、「こども食堂」と「だれでも食堂」というのがある。「だれでも食堂」では、その場で食べることも食べ物を持って帰ることもできて、誰でも使える。今は月に１回しか開催されないが、開催頻度を増やしたり、その場所をこどもの居場所として使うことができたりすれば、親も助かるので良いのではないかと思っている。

- こども食堂には行ったことがないが、文房具などを配ってくれると利用者が増えると思う。中学生になると、文房具に拘る人が増えるため、「あそこに行くと文房具がもらえるよ」となると、利用者が増えると思う。シャーペンや消しゴムなどが魅力的だと思う。
- こども食堂に１回でも来てくれた人に文房具をあげた方が、利用する人は増えると思う。
- 私の区では、こども食堂にお金や食材を寄付してくれる人を募集している。
- 地元の農家と協力して、農家で余った食材をこども食堂で出したら良いのではないかと思った。
- 農家で余った食材を活用するとフードロス削減にも繋がるし、そのような組み合わせも、お金をかけずにこども食堂を運営する案として考えられると思う。
- 「こども食堂」というと生活困窮者の居場所というイメージがあったが、インターネットなどで調べていく中で、誰でも利用できることを知った。こども食堂についてあまり知らない人は、生活困窮者が利用するイメージが強く、自身が利用するハードルが高いのではないかと思うため、そのハードルをなくすことが大切ではないかと思う。学校や家などに、「誰でも利用できます」と目立つように記載したこども食堂のチラシを配ることで、利用者が増えるのではないか。
- 学校の給食は持って帰ることができるのかなと思っていた。小学生の頃に、スイカの種を持って帰ろうとして、周りから変な目で見られたことがある。
- 私の友達で、あまり給食を食べない子がいたのだが、その子はよくパンなどを家に持って帰っていた。周りからは「なんで持って帰っているのか」と言われていた。持ち帰ることはあまり良くないことなのかなと思っていた。
- 給食を家に持って帰る人は、中学校でも小学校でもいた。しかし、学校としては、特に夏場などの暑い季節は衛生的な面からも「持って帰った給食を食べておなかを壊されるくらいなら、持って帰らない方が良い」という考えになるのではないか。学校としても、健康問題に繋がりかねないことは責任を取れないため、健康を第一に考えて、給食を持って帰ってはいけないというルールになっているのではないか。

（テーマ担当者との質疑）

- こども食堂を運営するためにはお金がかかるが、現在の食べ物の価格高騰も相まって、今はよりお金がかかっていると思う。利用者からはお金をあまりもらうことはできないが、どのようにお金を集めているのか知りたい。
  - 担当課）こども食堂の運営はお金がかかるが、上手く工夫しながら行っているところもある。例えば、こども食堂の中には、寄付用のフードバンクを行っている企業から食材を寄付してもらい運営しているところがある。また、こども食堂を運営している人はボランティアであることが多く、人件費がかからないこともある。人の善意に頼って運営しているのである。確かに現在は物価が高騰しているが、自治体や国からも補助金が出ているため、それらを活用しながら、こども食堂は運営されている。

- こども食堂でお菓子が出た場合、食べきれなければ持って帰っても良いのか。
  - 担当課）各こども食堂の運営によると思うため、具体的には把握できていないが、こども食堂

で提供されたものは基本的に家に持って帰れるのではないかと思う。

３班（高校生・大学生世代／Ｂテーマ）

【テーマ１：概算要求全体像】

〇質問１：こども家庭庁予算は、4.8 兆円となっていますが、みなさんのために使われている実感はありますか。

- 私は福祉系の大学に通っているが、大学生になってから福祉について学ぶことで初めて「ここに予算が使われているのだな」と知った。高校生までは知らなかった。学校の授業で福祉に関連する活動をする中で、予算の使い方などの構造を知ることができた。予算の使い道についてみんなに知ってもらうためには、もっと身近での周知が必要だと思う。
- 自分は今高校生だが、こども家庭庁のお金が自分の身の周りの教育機関に使われていると知らなかった。県立高校は全て県のお金で運営されていると思っていたので、国のお金も使われていると知りびっくりした。自分の周りだと、こども家庭庁があることすら知らない人がいる。高校１年生の履修科目で社会科を選択しない限り、こども家庭庁について知る機会はないと思う。まずは、こども家庭庁が何かというところから皆に教えられると良さそう。
- 自分たちのために予算が使われている実感があるかについて、社会の授業で習うので「政府が予算を使っているのだろうな」とは思う。ただ、どの省庁の予算なのかまでは分かっていない。こども家庭庁自体が認知されていないので、もっと周知していいと思う。学校で社会の授業を担当している先生が国について詳しく、こども基本法などの話もしてくれた。
- 私も県立高校に通っていた。こども家庭庁予算が 4.8 兆円と聞いても実感がわかない。予算の内訳に焦点を当てると、児童手当も含まれているとのことだった。私がこども時代、児童手当が自分に使われていることや、その存在について良く知らなかった。こども家庭庁予算は放課後児童クラブや保育所にも使われているとのことだった。自分が放課後児童クラブと保育所のどちらにも関わったことがなかったことを考えると、全てのこどもに予算が割かれているのかは疑問。また、こども家庭庁の予算の約 10%が大学の授業料減免のために使われているとのことだが、実感がない。給付型の奨学金をもらえるのは限られたこども。高校生が進学先を考えるとき、家庭の経済状況や、奨学金の利用についてあまり把握していないと思う。家庭によって格差が生まれるため、こども家庭庁が予算の使い方についてもっと説明してくれればいいなと思う。
- 私は学校教育と福祉学の両方を学んでいる。学校教育はこどもたちにとっての小さな社会なので、学校においてこども家庭庁などについて知る機会があることが必要だが、教えられる生徒の側からすると、うるさく感じるかもしれない。そのため、学校内外での雑談など、講義形式ではないフランクな形でこども家庭庁について知ることができるきっかけがあるといいなと思った。
- 私は、こども家庭庁の予算が自分自身に使われている実感は最近までなかった。児童手当は実際には生活費に使われ、こどもの教育に充てられていないこともあると感じる。例えば中学生には月額で１万円程度が給付されているようだが、塾に行きたくても行けなかったりするので「児童手当は生活費に充てられているんだ」と感じる。こども家庭庁予算が使われていると感じたのは、高校の授業

料無償化がされたとき。私自身が手続きをしていて、授業料を国の予算でまかなってもらっているんだなと思った。そういった経験がない人は、予算が自分のために使われていることを実感する機会がないと思う。予算は一部の限られた人が使っているので、違和感がある。また、大学の奨学金の制度を見ても、全然使われていないと思う。

- 僕の親が給付金の利用申込みをしており、学校から承認通知を受け取ったことで初めて予算が使われていることを感じた。目に見える形で直接お金を渡されることがなければ、実感はわかないと思う。高校生なので、周りの友達と大学の奨学金について色々話すが「奨学金は借りても返さなければいけないから負担高いよね」と、奨学金があっても実際の利用を諦めている子が大半だった。奨学金にもっと予算を充てるなど、変えていったほうがいいと思う。

〇質問２：こども家庭庁の予算でやっている事業を知ってもらうために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- 今こども家庭庁が行っている政策のほとんどは、幼少期のこども向けだと感じている。保護者は政策について知っていても、実際のこどもは知らない。高校の授業料無償化は話題になっていたので、大学の授業料の無償化など、こどもたちが教育を自由に選択できるような政策をとれば、知名度を獲得できると思う。
- 大学の無償化など、思い切ったことをすれば取組の認知度は上がると思う。ただ、知り合いに大学の教授がおり、大学の授業料が無償化されると私立大学の人気が高まり、国立大学がつぶれるというような話をしていた。そのため、必ずしもお金をまけばよいという訳ではないと思う。

〇質問３：こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。

- 見たところ、方針の内容は、どちらかというとこどもを育てている家庭の支援に重点を置いていた。今大人になっている人も、元々はこどもであり、社会をつくる一員である。最近ではこどもを産まずに独身で生活する人も多いと思うので、そういった人も取り残さずに全ての人たちが生きていけるような社会づくりをしたいと思っている。自分自身や周囲にこどもがいるかいないかに関わらずに、関与できる何かが欲しい。
- 奨学金の話は、福祉では「スティグマ」といい、お金を借りることで「返さなければいけない」という気持ちになり、自分の負担が目に見えてわかる仕組みだと思う。中学生などの進路を決める時期から、奨学金について、借りても大丈夫であることやどんな制度であるかについて少しずつ学ぶ機会があるといいなと思った。親子にまとめて経済的な支援をすることによってこどもを産みやすい環境になるし、皆が困窮せず大学に行きやすい環境にもなるだろう。
- こどもの支援といっても、予算は小さいこども（０～５歳くらい）を対象にしているのかなと思った。日本が少子化で厳しい状況にあるためこどもを産みやすい環境にしようという意図だとは思うが、自分の母親に話を聞くと、こどもが小さいときより高校生になってからの方が、よりお金がかかっているとのことだった。定義上 18 歳までがこどもなので、幼少期のみならず、18 歳になるまでの期間全体を考え

た支援がなければ、こどもがほしくないと思ってしまう家庭やカップルもいると思う。

- こども未来戦略方針には「今年度から出産育児一時金の引き上げ」とある一方で、高等教育の支援拡充については今年度や来年度の見込に含まれていない。そもそも、奨学金を受けていた人がこどもを産むことは経済的に難しい。少子化対策加速化プランには「ライフステージを通じた子育てに係る経済的支援の強化や若い世代の所得向上に向けた取組」「全てのこども・子育て世帯を対象とする支援の拡充」「共働き・共育ての推進」とあり、なぜか分からないが、高校や大学生を対象とした支援があまりにも少ないように思う。
- 私は、大学で地域創生、障害福祉、こども福祉など色々な面から福祉について学んでいる。最近は「伴走型支援」という言葉をとてもよく聞くようになった。私自身はありがたいことに奨学金を借りずに大学に通うことができているが、もっとスピード感をもって、みんなが目に見えて「助けられているな」と思うくらいまで支援する必要があるだろう。議論をするだけでなく、実際にお金を動かす必要があると思う。
- こどもが生まれてから小学校に入るまでの支援が手厚く、そのあとが薄いとの意見が出た。赤ちゃんはか弱い存在なので、支援が手厚いのは妥当なのではないかと思う。赤ちゃんの時期にはすぐ病気になるので、医療費がかからない仕組みになっていると親にとっても安心だと思う。
- 高校に入ってから授業料の減免がある。なぜ減らすだけで、なくならないのかが分からない。私立の学校の場合は授業料を無くすと経営的に困るかもしれないが、公立であればなくしても良いのではないかと思う。
- 今日は、自分たちが若者・こどもだから、自分からみた話をしていていい議論だなと思う。こういった議論をするときに、こどもがいかに真ん中であるかが大切であり、原点にして頂点だと考えている。さきほど「親の支援」の話がでていたが、親の支援についても、いかにこどもが真ん中・中心になっているかの視点で進めるかが大切。
- 「若い世代の所得を増やす」プランをみると、実際には所得を増やすような内容にはなっていないのではないかと感じる。所得を増やすためには、高等教育を受ける必要があるため、最も注力するべきなのは、授業料の免除だと思う。
- 「幼児教育・保育について、量の拡大から質の向上へと政策の重点を移す」とあるが、保育士の方にとっても奨学金がある場合には、返済しながら働くことは酷ではないかと思った。
- こども・高校生の支援だけでなく、それに付随する教育機関で働く人々の給与の底上げなどにもこども家庭庁の予算を割り当てていくことはありだなと思った。

【テーマ２ ：こども政策 DX】

＜自治体の DX の促進について＞
〇質問１ ：市役所や区役所の手続きは、手書きで行う手続きがまだ多くあります。
デジタル化やオンライン化などの DX を進めるためには、何が重要だと思いますか。
＜こども DX 見本市について＞
〇質問２ ：これまで、お父さん・お母さん・先生などが、手続き等で大変そうにしている様子を見たことがある人もいると思います。どのようなサービスがあったらお父さん・お母さん・先生などが助かると思いますか？
※テーマ２の質問１と２はまとめて意見を交換した。

- 周りの人が大変そうにしているのを見たことがある。デジタルにいきなり変えるのはちょっと怖いと思っている。紙媒体からデジタル媒体に変える手間もすごくかかるだろうし、変えるときにはミスが多くなりそう。段階的に変えることも視野にいれることが重要だと思う。段階的にというのは、デジタル格差・情報難民の人を考慮しての発言である。デジタルに疎い人がいるので、一気にデジタル化をすると、情報が埋もれて分からなかったり、嘘と本当を見分ける力がまだ足りていななかったりする。スマートフォンも、長い歴史でみたら最近現れたもの。情報の見分け方などについての教育をしっかりしてから、デジタル化することが必要。みんながデジタル化に詳しい世代において「デジタル化します」と言われたら賛成だが、格差がある中ですぐに切り替えるのは怖いと思った。
- 僕は身近な人が手続きで大変そうな様子を見たことがないが、デジタルに変えるのはいいと思う。ただ、まだガラケーを使っているお父さんお母さんやスマホに慣れ親しんでいない人たちがいれば、デジタル化をしても、その人たちの負担が逆に増えたりすることが懸念。ちょっとした申請であれば、デジタルでも判子に代わる自分のサインのようなものを使えるようになれば良いと思う。
- 準備は大変だが、色々な選択肢を増やせばよいと思っている。オンラインが得意な人もいれば、アナログで今まで通りの手続きをするのに慣れている人もいる。オンラインにすることのメリットのひとつが「人と会わない」こと。市役所などに行くのはどきどきする。人によっては市役所などに対して良くない感情をもっているので手続きに行かず、結果として負の連鎖が発生したりもするだろう。デジタル化自体には手続きのために直接赴かなくても良いというメリットもあるので賛成する。一方で、いろんな人を想定することが必要で「完全にアナログでの手続きは辞めます」とするのは良くないなと思う。
- 親に「もし手続きがデジタル化したらどうか」と聞いた。こどもが生まれたときの手続きで大変なのは提出すること自体ではなく、提出すべき書類の数の多さとのこと。書類の数の問題なのであれば、市役所で対面提出をしても、オンライン上で提出をしても大変さはあまり変わらないのかもしれないとも思う。ただ、選択肢が増えるのはいい。市役所に行っても２時間ほど待たされたりすることもある。デジタル化自体はいいが、紙の書類を一切受け付けないのは辞めたほうがいいと思う。
- 両親や先生だけでなく、自分自身が市役所に行くことが多いので、手続きが大変だなと思う。土日祝日休みの仕事だと、休日に市役所が開いていないこともある。また、平日の仕事終わりに手続きに行きたくても役所が開いていない。週のうち平日のどこかのオープン時間を伸ばすのもいいのではな

いだろうか。

- 私の場合、交通弱者といって車を持っておらず自転車も乗れない。田舎なのでバスも通っていない。そのような状況において、手続きのデジタル化はありがたい。行政のつくるサービスは UI が悪いイメージなので、デジタル化に後ろ向きになる気持ちは分かる。
- DX 特区をつくるのも面白いのでは。例えば東京都の品川区だと、IT 関連の企業で働き PC 操作に慣れている方が多いと思うので、試験的にそういったエリアでデジタル化をして改善点を練るのもよさそう。

＜こども DX 見本市について＞

〇質問３： DX 見本市にどのようなセミナーやイベントがあったら、盛り上がると思いますか？

- DX 見本市の説明を聞いても、あまりイメージがつかない。私が住んでいる地域は東京が遠いこともあり、情報が届くのが全体的に遠いと感じる。身近なところだと、私が住んでいる地域では TV のチャンネル数が少ない。電波が届かない地域も多く、デジタル化に疎い。
- 自分はDXやデジタルと聞くと、色々と難しいと思う。デジタルについて話そうというセミナーがあっても、絶対に参加しないので、楽しい要素があるといいと思う。一方的にデジタル化について話されているだけだとつまらないので、自分もゴーグルをつけて体験することなどができるといいと思う。
- そもそも DX に興味を持っていなければ、オンラインでセミナーやイベントに参加しようという気にはならない。そして、参加する気にはならないような人たちほど困っていると思う。地方に住んでいると交通網がなかったりして対面のイベントに参加しづらいので、地域ごとにイベントを開催してできるだけ対面で参加できるようにしてほしい。また、対象が大人なのかこどもなのかによっても企画の内容は異なると思う。
- 地方でいうと、県ごとでセミナーやイベントを実施してくれたらまだ伝わりやすいと思う。私が住んでいる地域と東京はとても遠く、韓国のほうが近いくらい。東京のイベントに参加すること自体、ハードルが高いので、身近なものにする必要を感じる。私たちも大学などでイベントを開催する際にはバーチャル体験などを行って一般の人も見に来られるようにするなどの工夫をしている。ゆくゆくは田舎の人も都会の人もみんなが参加できるイベントになるといいなと思った。
- 小学校の授業参観で親子を対象にした DX 体験をしたり、中学や高校でグループワークをしたりするといいと思う。小学校でイベントを行うと、親御さんにも情報が届くというメリットがある。
- DX 見本市にはこどもや親も参加することを想定しているのか、専門の事業者・自治体だけが参加するものなのか。もし専門外の人が来ないのであれば、見本市に面白い要素は求めず、自治体の人にとってわかりやすい説明を追求すればいいと思う。
- メタバースのように、仮想空間で自分が自由に歩き回れるような見本市であれば、遠くにいても目的を果たすことはできると思う。

【テーマ３ ：こどもデータ連携】

〇質問１ ：みなさんは生活で困ったことがあったときに周りのおとなに相談したくてもできないと感じたことはありますか？

- 自分は高校２年生のとき、学校に行けない時期があった。そのときは相談しようと思えばできる環境にはいたが、誰にも相談しなかった。相談したくない、言いたくないという気持ちがあり、相談しようと思わなかった。
- 自分がいじめにあったことも、いじめを見たこともある。おそらく、類似の経験をしたことがある人は多いだろうと思う。当時は自分のことで精一杯で、相談する余裕もなかった。相談をしても、大人を信じることができない。相談したら、こどもたちに広められて、悪化するのではと心配になる。相談機関があっても相談するのだろうか。福祉系の講演会にも参加するが、そういった心配との折り合いをつけるのは難しいと感じる。
- 相談すると怖いというのはみなさんが言った通り。大人への信頼を失くすもっとも大きな要因、きっかけは、小さなアプローチを教員などの大人にしたときに、気づかれないことだと思う。
- 相談できないし、相談したくないということもある。私は小学生の頃に教師からの激しい給食指導を受け、苦しんでいた。学校でこども人権 SOS の案内が配布されていたのでお手紙を書いたら、その返信が何の解決にもならない「がんばってね」というようなものだった。
- 僕はいじめられたこともなく、生活で困ったこともないので実体験には基づかないが、学校で「相談できるよ」という案内はある。手軽に相談できるからこそ、相手からの返信も手軽になっているのかなと感じたことはある。小学校のとき、学年をあげていじめられている子がいた。その地域は知的障害をもった子が多く、障害を持っているからこそ、その子は自分がいじめられていることにも気づいていなかった。知的障害がある僕の友達も、小学校でいじめを受けたとのことだった。まだ社会についてあまり理解できていない小学生に、多様性のことを知らせるのは大事だと思う。
- アメリカでは、いじめている側にカウンセリングをして対処する。そういう全体の抜本的な教育というか「だからいじめをしちゃいけないんだよ」とお金をかけて教えていく必要があると思う。

〇質問２ ：いじめや不登校、虐待で困ったときに相談できる機関が地域にあることを知っていますか？
※児童相談所、こども家庭総合支援拠点、こども家庭センター など

- いじめや不登校、虐待はとてもセンシティブな問題なので、アウトリーチといって支援者の方から出向く支援を継続することで、いつか心を開いてくれるのではと思い取り組んでいる。今余裕がある相談を受ける側が考え続けることの大切さをすごく感じた。
- 山梨県の相談機関の相談者内訳をみると、そのほとんどが大人だった。こどもが、自分が相談をしてもいい対象だと認知することが大切。相談機関が地域にあることを知っていても、相談していいのだと思っていない人がいる。自分がどんな権利を持っていて、自分が困っていることはどこに相談すればいいのかがもっと伝わるといいなと思う。
- 私が住んでいる地域では相談員も少ない。スクールソーシャルワーカーという専門職がいるが、全国

的にその数は少なく、私が住んでいる地域では２～３校あたり１名程度しかいない。相談することの難しさも改めて感じた。

- 生徒が学校で相談室に行くと、同級生が「あの子何かあったのかな」など噂をしたりする。また、私の学校には１人の相談員しかいなかったので、その相談員との相性が悪いとどうしようもなくなる。学校関連の相談だと、先生に聞かれてしまうこともある。あとは、地域でいうと、こどもだとそもそも自分でアクセスできず行けない地域もある。
- これまで小学校、中学校、高校の話がでてきたが、保育園児は相談できる機関がないと思う。私は保育園に通っていた時も度を過ぎた食育指導を受け、どこにも相談できなかった。親に相談しても、保育園の実際の様子を見ていない中で、こどもなので話半分くらいに聞かれてしまうことがあった。幼い人も相談できる機関があればいいなと思う。
- 第三者機関の設置が重要。学校に話が広まるのがいやであれば、地域での第三者機関が必要。相談機関が段々増えてきていても、その絶対数が少ないと、知り合いと繋がったりするため、数を増やすことは重要。相談できるようになるための一歩として、こどもの権利条約 12 条にあるように、幼い時から自己の意見をどのように伝えていくかを教えるのが重要。

〇質問３：地域の相談機関などが持っているデータを連携して SOS を出せないこどもや家庭に支援を届ける取組についてどう思いますか。

- 取組自体はすごく良いこと。ただ支援のありかたによっては、見えない SOS を悪化させる恐れがあるのではと思う。例えば「児童相談所の職員が家に来た」となると、保護者は不安になり、その不安をこどもに押し付けたりするかもしれず心配である。
- むやみにデータを使うことで、自分のことが知られてしまう恐怖感についても議論する余地がある。
- 制度的に「こういうことがあるとこうする」と決めると、事態が悪化する可能性もある。虐待のように、親が隠そうとすることもある。例えば、政府が予算を付け、自治体が NPO 法人などの相談機関に補助金を出して地域のお宅訪問をするなど、伴走型支援をすると、問題は減るように思う。これは支援する上で重要なことだと思う。
- 事態を悪化させる可能性があるというのは腑に落ちる。問題のあるとされる家庭にのみ訪問するのではなく、一歳検診のように一律で家庭訪問をすれば、発達支援や悩みを聞くことに繋がるだろう。むやみにデータを使う必要はなく、まんべんなく支援するのが重要ではないか。
- 「地域の相談機関が持っているデータと連携して」とあるが、SOS 出せないこどもたちのデータは相談機関にあるのだろうか。施設にデータがあるということは、SOS がだせているということ。なので、この取り組みが本当に SOS を出せない人のためになるのかが疑問である。
- 地域の相談機関がどこまでデータをもっているかは分からないが、あまりにデータを持ちすぎてしまうと、虐待をしている親から「プライバシーの損害では」と情報を集めることを阻害されるかもしれない。保護者から訴えられないような対策もするべき。

４班（大学生世代～社会人／Ｂテーマ）

【テーマ１：概算要求全体像】

〇質問１：こども家庭庁予算は、4.8 兆円となっていますが、みなさんのために使われている実感はありますか。

- あまり実感はない。政府が少子化対策に総力を挙げていることは知っている。また、今回のいけんひろばの事前勉強会の資料にあったように令和５年度こども家庭庁当初予算の 11%を大学の授業料減免等が占めているようだが、自分は使っていないのでなじみがない。教育に関わる内容をもっと手厚く進めた方が、少子化対策の解決につながるともっと結びつくと思う。

〇質問２：こども家庭庁の予算でやっている事業を知ってもらうために、どのような取り組みが必要だと思いますか。

- SNS を使えば知ってもらえるとは思うが、こども家庭庁が何をしているかはこどもの頃から知ってもらう必要があるため、こどもに焦点を充てていく必要があると思う。
- こどもにまつわることは文部科学省や厚生労働省も扱っていると思うが、どこの部署が具体的に進めているのかわからない。こども家庭庁という観点ではなおさらよくわからない。
- 予算の 4.8 兆円というのはかなり大きな金額だと思う。こどものために予算が使われている実感を持つには、こどもを育てる側の人に、児童手当や出産手当などの各種制度をもっと発信していくことが必要だと思う。自分たちの世代が知ることで、こどもたち世代に伝えられると思う。

〇質問３：こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。

- こども未来戦略方針マップ（以下、マップ）を見たが、自分がこどもを育てることを想像すると、見知らぬ人に攻撃される社会であることが怖い。例えば、個人的には公共機関等でぶつかってくる人が怖い。自身も経験があるが、こどもがいる人にとってはもっと怖いと思う。運転免許の更新制度が義務化されているように、こどもに関する知識のアップデートや学びなおしを義務化できたらよいと思う。
- こども世帯の負担について。自分は公務員をやっているが、給料はたかが知れている。こどもができたとき、自分みたいな公務員であればまだ安心して育てられるが、派遣社員やパートタイム社員の方であれば、自分の生活のことで手いっぱいになると思う。安心して育てられることが大事。
- 夫が産休や育休を取ったとしても、子育ての中心は母親になることが多いと思うので、精神的に追い詰められた時などカウンセリングが受けられる制度や仕組みがあればよいと思う。
- マップでは相談員が言及されているが、相談員の人がどれくらい給料もらっているか気になる。非正規雇用においては、やりがいも大事だが、給料をあげることも大事だと思う。
- マップを見ると幅広い世代に方針が充てられている。少子化対策をしていくと謳っている割には、予算金額が十分でないうえ、ターゲットも本質的でないと思った。今後予算を増やしていく中では、本

当に支援が必要な人に届く事業が増える必要があると思った。

- マップの始まりが妊娠であることに驚いた。
- 自分はまだ働いておらず、正直子育てがどれくらい大変なのかわからない。子育てについて、何を知っておく必要があるか、何をしなければいけないか等の前提知識を持っておく必要があると思った。女性やこどもを下に見る人がいるという問題も、そういう人たちに知識がないから下に見ているのだと思う。なので、学校などで最低限の知識を学ぶ機会があれば良いと思った。マップの最初にある「伴走型相談支援スタート」のタイミングで、子育ての大変さや必要な配慮等を知ることができる機会を提供することが大事だと思った。
- 自分の周りでも、男性が、母親側がどういう状態で子育てしているのかを知らないで発言しているのを見かける。高校生や大学生の時点で、知識を得ておくことが大事だと思った。

【テーマ２ ：こども政策 DX】

＜自治体の DX の促進について＞

〇質問１ ：市役所や区役所の手続きは、手書きで行う手続きがまだ多くあります。デジタル化やオンライン化などの DX を進めるためには、何が重要だと思いますか。

- 自分たちより上の世代の理解が重要。自分の職場でも、オンラインのイベントに対して当初は年配の方から反発があったものの、やってみると「そういうやり方もあるんだ」と理解してもらえた。オンラインに否定的な上の世代の理解を得ることが必要。
- DX できる手続きかどうかをブレインストーミングなどで洗い出したうえで、情報漏洩などの問題が生じた際に誰の責任を問うのかに注力するのではなく、問題が生じた際の対処方法を考えるなどリスク管理をする前提で検討していくことが大事。
- IT ベンチャーで働いていたとき、小さい企業であればあるほどミスを受け入れたうえで随時対応していた。国民がミスを許すという雰囲気をもっと作っていかないと、IT が発展しないと思う。

＜こども DX 見本市について＞

〇質問２ ：これまで、お父さん・お母さん・先生などが、手続き等で大変そうにしている様子を見たことがある人もいると思います。どのようなサービスがあったらお父さん・お母さん・先生などが助かると思いますか？

- 両親にこの質問を投げかけてみたところ、母は、各制度の手続きについて、手書きが基本だったり、色々な書類の提出が必要だったりすると言っていた。スマホで簡単に手続きできたり、自治体が持っているデータの提出を不要としたり、オンライン上で一括して手続きを進められたりすれば、迅速なこども支援につながると思った。

質問３ ：DX 見本市にどのようなセミナーやイベントがあったら、盛り上がると思いますか？

- こどもが行きたいと思うことが重要。こどもが行きたいと思えるよう、キャラクターなどを用いたかわいいグ

リーティングイベントがあるとよいと思った。

- 既存の成功事例を踏まえて新しい解決方法を見出していく事が大事。また、外部の SNS や動画を駆使してビッグデータなどの専門家が世間に解決策を周知するようなセミナーなどがあると、バズって国も新しい方法を発掘できるかもしれない。
- 現地参加とオンライン参加では情報の受け取り方が違うので、両者の差異を埋められたらと思う。オンラインだと講演の配信などに限定されていて勿体ない。
- 首都圏で開催し、オンライン配信する手法自体はよいと思う。ただ、見本市の存在自体があまり知られていないと思うので、子育て世帯にとって対面で参加することが魅力的になるように特典を付けるなどして、関係者以外も参加できることを知ってもらうことが大事だと思う。
- 行政から周知されただけでは、知っている人が限定的になる。他の民間企業のイベントとの抱き合わせにしたり、テレビなどで情報発信したりするなどした方がよいと思う。
- 会場がおそらく広いと思うが、広すぎて全部を見て回ろうとすると大変だと思うので、子育て世帯の負担にならない程度の広さの場所で開催するのがよいと思う。
- ショッピングモールなどにこどもが楽しめるアミューズメント型の託児所があれば、こどもも大人も楽しめると思う。

＜その他＞

- 公共の様々な資料の文字が小さいことが気になる。
- こどもがいる場所には Wi-Fi があった方が良いと思う。自分が勤めている児童館でさえ Wi-Fi を設置できない状況なので、もっと予算を付けたほうがよいと思う。
- 自宅や通っている大学の Wi-Fi が微弱。何かを調べるときにつながらないとストレスが大きい。Wi-Fi は日常生活で必須のものになりつつあるので、もっと色々な場所にしっかりとした Wi-Fi を整備する必要があると思う。

【テーマ３ ：こどもデータ連携】

〇質問１ ：みなさんは生活で困ったことがあったときに周りのおとなに相談したくてもできないと感じたことはありますか？

〇質問２ ：いじめや不登校、虐待で困ったときに相談できる機関が地域にあることを知っていますか？

※児童相談所、こども家庭総合支援拠点、こども家庭センター　など

※テーマ３の質問１と２はまとめて意見を交換した。

- 昔いじられたことがある。おとなに伝えて解決したが、その後どこに相談するべきか分からなかった。年を重ねるほど、「こういう見方もあるのか」という気持ちの整理ができるようになった。
- 内容によっては、周りに相談しづらいと思う。中学生の頃、担任の先生に自分の意見を紙で伝えたことがあるが、声で直接伝えるようにと言われて何の解決にもならず、どうしたらよかったのかわからなかった。

- 自分が高校や大学の頃を振り返った時、親と自分の関係が良くなかったときに衝突することがあった。親は、一回叱り始めると１、２時間叱る人間だった。相談したいと思ったときに相談できる機関に対して、どれくらい自分の話をしたらよいかわからなかった。学校に１人でも安心して話せる大人がいたらと思う。実際に自分のことを知ってくれている身近な人に相談をしたい。そういった人がいる学校が、自分にとっては最も相談しやすいと思う。
- 学校に通っている人からすると、学校が一番身近なことが多い。学校に行けてない人は周りの大人の人に相談すると思う。そういう意味では「児童相談所、こども家庭総合支援拠点、こども家庭センター」は機関としてのイメージが大きく、身近ではないし大事になってから動くイメージなので、どのように思ってもらえるかが大事だと思う。
- 自分は中学の頃スマートフォンを持っていなかった。インターネット環境がない人は、なかなか相談先を知ることができない。電話相談も、家族に聞かれることを恐れて相談できないかもしれない。そういう人にとっては、図書館など、カウンセリングのように話を聞いてくれる大人がいる環境や居場所があると逃げやすいし、助けを求められると思う。
- 児童相談所などよりは児童館の方がなじみ深いと思う。児童館は小さい子が行くイメージがあるかもしれないが、児童館ガイドラインには、18 歳未満のすべての子どもを対象にしているとある。児童館を相談場所として活用することはどうか。
- 自分の場合は親が外部と接点を持たせてくれず、児童館という場所もあまり知らないので使うイメージがあまり持てない。
- 自分の小学校の近くに児童館があったので、友達と一緒に児童館に行くことが多かった。児童館もそこに来ている子も学校とは違い、大人とこどもが近い距離で過ごせる場所だったので、相談できる場所としてはありかなと思う。
- 調べたら児童館が意外と近隣にあるようだが、名前が児童館ではないため気づいていなかった。

〇質問３：地域の相談機関などが持っているデータを連携して SOS を出せないこどもや家庭に支援を届ける取組についてどう思いますか。

- 虐待されたこどもが行政の支援を受けられず亡くなったケースを見るたびに、最後のセーフティネットとしては、介入力のある警察などが適切だと感じる。そういう観点では、児童相談所に虐待の情報等が入った時点でもっと迅速に警察などに連携することが重要だと思う。
- データ連携はよいことだと思うが、学校の先生などの負担が重くなると思った。データを生かすこと自体は大事だが、学校の負担が大きすぎると大変なので、関係機関がサポートしていく必要がある。
- 各関係機関がデータ連携をすることで、これまで以上に支援が届くようになるとは思う。一方、学校の負担が大きくなることや、マイナンバーのミスなどの DX の信頼性に懸念がある。データ連携をする以上は、セキュリティ面で情報漏洩が起きないようにする必要がある。
- 自分は高校の途中から不登校になった。その時最初に相談できたのは学校の先生で、そこからカウンセリングや保健室の先生を経て専門機関に行きついた。各関係者の連携がしっかりしていればよいのかなと思った。児童相談所、こども家庭総合支援拠点、こども家庭センターなどの機関の存在

は知っていたものの、そこに話したくないと思っていた。不登校の人の中でも、支援機関にコンタクトを取りたいかは様々だと思う。気が向いたときに話せるインターフェースのようなものがあればよいと思った。

- 直接相談したいときは、対面でカウンセリングという方法がよい。距離をおいて話したいと思ったときは、SNS などリアルタイムでなく後から見返せる形であればいろんなニーズに応えられると思う。

５班（社会人／Ｂテーマ）

【テーマ１：概算要求全体像】

〇質問１：こども家庭庁予算は、4.8 兆円となっていますが、みなさんのために使われている実感はありますか。

- 私は仕事で保育の予算に携わっている。所属している地域の市長さんは児童クラブの予算を頑張って確保してくれているが、求めているところとずれている。お金は補助金や法人のやりくりでどうにかなるが、田舎には人がおらず、人を育てる教育や研修もできず、それなら ICT に特化した県の人を 1 か月だけでも派遣してほしい。
- 保育所の予算が取りにくく、地方では加算を付けられない。また加算をもらうのも難しく、申請を誤るとさかのぼって返金対応をする必要があるので大変である。分かりやすい加算の仕組みにしてくれた方が申請しやすい。最近できたチーム保育加算も分かりにくいので、申請しないことにした。不明なことがある時はまずは市や県に聞いてみようとなるが解決しない。保育士に 9,000 円の補助金が出てコールセンターの窓口が設置された時があったが、その時はわかりやすかった。現状の市町村では部署異動もあるので、３、４年でわかるような内容ではない。
- 私のこどもが待機児童になっている。村に保育所が１つしかなく、国の定めた必要な保育士が足りていない状況である。予算を組むとなると１年後になるので、また来年度の頭に来てほしいといわれる。育休取れない人はどうしているのか具体的にはわからないが、村を出ていく人や児童クラブで諦める人もいる。児童クラブでは本当にこどもを見ているのかと不安に思う。予算は自治体・国・県に 1/4・1/4・1/2 で分けられているがそれぞれで手続きがあるので、国だけで１つの手続きにするなど、DX の前にやるべきことがあると思う。
- 看護師も足りていない。年度毎で予算が決められているので保育園にお金の余裕はない。申請をすれば貰えると思うが、人が足りていないので申請をする暇もないという現状である。
- 今後子育てをすることを考えると所得制限がひっかかってしまう。つまり予算が足りていないと理解しており、所得制限があるだけでこどもを持つことのやる気がそがれるので、制限をなくしてほしい。
- 幼少期に引っ越しが多く、地域差を感じたので、保育の地域差を解消してほしい。他に地域差を感じたところとしては公園で、公園を利用する際の制限が多いところに地域差を感じた。また公共施設の近さも地域によって異なる。公民館でのこどものための催しの有無も地域の余裕の違いを感じた。
- 住んでいる市町村に産科がない。産後ケアが遅れているので地元に帰って産みたいという人もいない。オンライン対応もしてはくれているが、あくまでツールの１個であり、生でやり取りする機会が欲しい。産科に行くのに１時間かかり、産科に行ってもまだ入院するタイミングではないと言われ、家に戻ってから産科にまた向かうこともあるなど産科が遠いと大変である。先生がいないのが現状である。
- 私の地域では高速道路を使って 30 分以内で産科にアクセスできるので、間に合っている。

〇質問２：こども家庭庁の予算でやっている事業を知ってもらうために、どのような取り組みが必要だと思

いますか。

- YouTube を面白くして活用するのはどうか。ダンスを踊る大臣などでアピールしたら食いつきが良くなるのではと思う。
- 農林水産省のバズマフは面白かった。今まで興味がない分野であったが、あれがきっかけで見るようになった。
- こども未来戦略方針マップが目に見える形であると安心する。ぎりぎりの状態になったらここで助けてもらえるとわかるので、もっと広報した方が良いと思う。
- 今回初めていけんひろば参加するので Instagram をみたが、国の方は積極的な発信をして意欲的であることを初めて知った。県や市の職員の方々はいつも業務的な連絡しか取ったことがなかったので、今後は国の方だけでなく、県や市の職員の方々とも話す機会や教えてもらう機会が欲しい。職員の方と予算申請について一緒に学べる機会があれば、市の行政の方の生の声が聞けて嬉しいのにと思った。

〇質問３：こども家庭庁では、今後、こども未来戦略方針に沿って、こども予算の充実に取り組むこととしていますが、こうした方向性についてどう思いますか。

- 周りに妊活している人が多いが、「お金を貰いたい」よりも「取らないで欲しい」と思っている。こどもを産んだ世帯は税率や社会保険料を１年間下げる・免除するなど、実際は難しいと思うが所得が増えないとこどもを持つことは難しい。給料は上がってはいるが実際に上がっている感覚はなく、妊活を諦めたり、産むとしても１人だけと決めたりしている人も多い。
- 経済的な理由でこどもを産むことを考えられない。加えて待機児童のことや、休職することもあるかと思うと出費もかさむので産むという選択肢はない。
- 貰える分もあるが取られる部分が多く、所得制限もあるのでこどもを育てることは割に合わない。
- 「こども誰でも通園制度」や「保育園の無償化」もあるが、保育士の立場からすると無償化にする場合の負担に値するお金を貰っていないと思う。
- 保育士の給料的にも人がいないので、研修費用は出せない。「こども誰でも通園制度」ではこども１人当たりの面積が決まっているので、受入の面積が足りるかなど課題があるのに、ただ通園制度や無償化をやることだけを言われていて不安である。きちんと予算をかけられていないと思う。
- 通園制度はあっても、通園する保育園がない。都会だったら充実しているのにと思う。
- 大学の学費の負担が軽くなるならこどもを産むことは考えられる。しかし、大学の授業料を減らすことついては国として大分負担が大きいと思うので、他にもやるべきことはあると思う。
- 児童館や児童クラブの扱いは雑である。職員１人当たりに 40 人のこどもを担当する必要があったり、建物の面積を考慮せずに沢山のこどもが集められたりすることがある。もっと小学校の先生と連携したり、建物を建てる際の基準を緩めたりするなど対応してほしい。また児童館や児童クラブの先生は非常勤が多いので、常勤職員を増やして様々な業務に対応できるよう仕事内容に目を向けて大人の視点で考えてほしい。自分の子ではないこども 40 人を扱う負担を真剣に考えてほしい。こどもがコロナ濃厚接触になっても、保護者が家にないので対処する職員が必要になることもあった。

- 仕事で学童に関わっているが、学童ではこどもも多く先生が少ないので制限されていることが多く、行きたくないと言うこどもが多い。

【テーマ２ ：こども政策 DX】

＜自治体の DX の促進について＞

〇質問１ ：市役所や区役所の手続きは、手書きで行う手続きがまだ多くあります。デジタル化やオンライン化などの DX を進めるためには、何が重要だと思いますか。

- 私はシステム導入を検討する立場にいるが、企業のシステムを公共領域で導入するのは難しい。予算や補助金はあるが制度が複雑なので簡単に使えない。児童館にとって事務は大事だが、主の業務としてはこどもを見る業務に時間を使ってほしい。職員の中には IT リテラシーが低く、パソコンが苦手な人もいる。特に上層部になると IT を嫌う方は保育業界に多い。また IT リテラシーをあげる教育の場が少なく、個人情報の観点から準備に２， ３年かかる。十数個の法人があるので、システムを導入することは中々難しい。
- そもそもシステムがないとできない連携なのか。システムありきになってしまうと、監査の資料を作成することにとても時間がかかる。資料を作っても、どこまで資料を見ているのかと思ってしまうので、監査の資料を簡素化するか、難しくしているところに辞書のようにまとめてくれると有難い。

＜こども DX 見本市について＞

〇質問２ ：これまで、お父さん・お母さん・先生などが、手続き等で大変そうにしている様子を見たことがある人もいると思います。どのようなサービスがあったらお父さん・お母さん・先生などが助かると思いますか？

〇質問３ ： DX 見本市にどのようなセミナーやイベントがあったら、盛り上がると思いますか？

※テーマ２の質問２と質問３はまとめて意見を交換した。

- 保育園では要録など監査のために書類を書くことが多い。正直そこまで必要ではない書類もある。会社が ICT 化しているが、ICT 化よって保育園だけではなく、小学生～高校生までデータを引き継げることができれば良い。例えばＡ社のアプリ（連絡帳）をずっと使えると、保護者や先生の負担も減る。こどもの次の学校に送る書類（要録）を作るのが大変であり、データで引き継げるならば見返せるので良いと思う。
- 都道府県と市区町村の監査が２種類あり、コロナ禍の際は PDF で送れていた資料があるが、最近はまた以前の Excel の出力という方法に戻った。
- 普段の業務では書類全てに対して印鑑が必須となっている。印刷してハンコを押す作業が現場にはまだ残っている。
- 私の職場ではまだ紙で書類を作成する必要があり、段ボール分の資料がある。ひとつの園だけでも書類が沢山あり、法人としても出力できるがそもそもの書類の量が多い。データ改善のためだと思う

が、PDF や Excel で出せないので紙で提出している。

- 書類のフォーマットは国も決めているが、現場では使いにくいフォーマットで来るので、地域にあうように手直しが必要になっていく。アンケートのような選択でフォーマットを選べるともっと楽になると思う。
- 親に対する DX は千差万別で対応範囲は異なるので、保育園の手続きを DX で対応できると時間と労力をかけなくて済むのでよいと思う。
- DX を進めるために、エンドユーザーである親世代に伝えることは本当に難しい。保育園などの職員や、そもそものシステム構造を整理する役割として重点を置いた方が良いのではと思う。
- こどもの関する手続きをネットで完結できると便利だが、保育園や先生の仕事に対する DX にお金と労力をかけてほしい。こどもに関する手続きをネットで完結して先生の負担が減るなら良いが、手間が増えて先生が本来の業務に集中できないならば後回しで良い。
- 園のシステムが統一されると、他の園に移動しても対応できるので慣れれば楽だと思う。園によって書類が違うこともあるので、ICT 化で管理しやすくしたい。しかし年配の方はタブレットでもタッチできない事が多い。今後は若い新しい先生が増えるので、頑張ってもらいたい。システムについて、様々な企業のプランがあるが保育園で対応することは予算的に難しいので国に頑張ってもらいたい。

【テーマ３ ：こどもデータ連携】

〇質問１ ：みなさんは生活で困ったことがあったときに周りのおとなに相談したくてもできないと感じたことはありますか？

〇質問２ ：いじめや不登校、虐待で困ったときに相談できる機関が地域にあることを知っていますか？

※児童相談所、こども家庭総合支援拠点、こども家庭センター　など

※テーマ３の質問１と質問２はまとめて意見を交換した。

- 幼いころは家庭内のことについて、相談できる場所を知らなかった。大学生になって相談窓口を案内され、地域や大学相談窓口があることを知った。家庭内のことを相談できる場所について、若年層は今も知らないのか、それとも現在は状態がアップデートされており若年層でも相談できる場所を知っているのか。
- 幼いころは担任の先生に相談していた。父子家庭なので、20 年前だと今のように父子家庭に優しい世界ではないのでストレスはあった。しかし、地域の連携があったので良かった。データがない地域ではアナログな方法の方が繋がりやすい。データに偏らずこどもに連携できるシステムがあれば、大人がくみ取って助けてくれたと思う。今のこどもも、デジタルありきではなくこどもの情報を連携するという観点で地域差がないと良いと思う。
- 父子家庭で下に３兄弟がいるが、奨学金の条件に満たなかったので４人とも大学進学はあきらめるなど経済的な課題を感じた。再婚や離婚があると転校なども多いが、こどもの状況に目を向けてくれている人がいたのかと思う。こどもたちに同じことで悩ませたくない。
- データ連携はできるようになれば良いが、田舎では地域の輪から外されたり、トラブルメーカーがいたりするので、データ連携したとしてもそのような場所で対応のために動ける人はいるのかと思っている。デ

ータ連携の事前勉強会では連携対象は学校や自治体と聞いたが、もっと幅を広げた方がよいと思う。例えば、警察など簡単に動いてくれないので対象に含めた方が良い。

- こどものころから相談するタイプだったので、担任の先生がひいきするという理由などで教育委員会に連絡していた。しかし教育委員会で止められてしまい、教育委員会が学校に伝えても学校内で処理されるだけであった。教育委員会に伝えるなど行動しても、今後言わないように押さえつけられることがあった。データ連携も含め、連携して機能として動かないと意味がない。
- 以前ひとり親の婚活アプリ問題があった。こどもを狙ってひとり親に出会おうとする人がいるため危険であるという問題があったので、父子家庭の支援など地域の人に助けてもらうという場面でのリスクに気を付けてほしい。

〇質問３：地域の相談機関などが持っているデータを連携して SOS を出せないこどもや家庭に支援を届ける取組についてどう思いますか。

- 私が普段こどもと接する時は、遊びで軽いパンチをされた際に「いじめ相談ダイヤルに電話するわ」など相談できる場所があることを話したり、こどもの権利条約があることを遊びの一環として伝えたりしている。それぞれの年代に近い上の年代の人が遊び半分で相談できる場所があることを教えることで、こどもたちに伝えていければと思う。
- 業務の１つとして、サポート相談員として生活保護から漏れている人のサポート役もしているが、こどもが危ない状況にあることに気づかないことが多い。先生達がこどもの体型や私服から気付けることがあっても、個人情報の問題があるので大事になってしまうと葛藤することもある。そのため、異変に気づいた保育士が状況を言える場所が必要である。データ連携で生の声や民間、有識者も交えて実情を理解するのは難しい。
- 幼保連携や保小連携で定期的に話せる場がある。話せる場があると、こどもの状況に気づいたことがある際にその子の兄弟の様子をみてサポートが必要であると確信が持てる。実際にこどもの様子を見ている人の情報を複数集められるような環境がほしい。人も足りていないが、実際に現場を見ている人の力が必要である。
- 現場の先生の気づきが早いのでそこで動けるか否かが重要である。将来的に監視カメラのように、カメラがこどもを見て、自動で状況を判別して児相にアラートを出すことができるとより良いと思う。プライバシーや予算の問題はあると思うが、現在実施されているような、こどもが１日の気分を入力して AI が自動で判断する対応ではなく、カメラで自動判別できる方がより良いと思う。
- まず保育園では人が足りない。保護者と１対１で話すのも時間の調整が必要であるが、保護者面談が残業になったり、話しても保護者が本音を話しているか難しかったりする。それに加えてこどものわずかな変化に気づければよい。例えば感情を表すカードをこどもがタッチして確認する方法を実施している先生もいる。
- 健診や学校の移動によるデータ連携は良いと思う。データ連携について、いじめに関してはされている側にフォーカスされているが、いじめをする側の対処について気になる。

いけんひろば後に追加いただいた意見

- 中学生は月に一万円の給付は有り難いけれど自分のどこに使われているのか実感がわかず、子どもに実感がわくかアンケートを取り各市区町村の広報でアンケート結果を載せて子どもが意見を表明するのはどうかと提案し、アンケート結果を見た保護者の考えや使用用途をアンケートに取り、子どもにフィードバックすると良いと感じた。 広報のアイディアで、番組で子どもや子育て中の大人に政策が分かるように伝える事やバラエティー番組に岸田首相が出演して G7 広島サミットを説明して下さったように大臣や政治家の方がバラエティーに出演し国民に親近感を感じてもらいながら政策を説明し、スウェーデンのように国民の政府への信頼感を高められたら良いと思う。参加者のひとりが「J リーグとこども家庭庁のコラボレーションの理由を知りたい、説明して欲しい」と話していて、政府の方針が子どもまで伝わっていないと僕も同意見だ。その参加者の意見に話せば良かったと思ったのが、僕の住む区や隣の区で、プロサッカークラブの選手が小中学生向けにサッカー教室をしに来てくれて、僕の同級生で将来サッカー選手になりたいサッカー部の友達が参加した事があって、プロの選手に教えてもらえるなんて凄いと感激していて、サッカーの練習を更に頑張るようになった事。全国各地で地域密着で行われるようになったら「友達もサッカーチームも応援したい」と思う人が増えて、スポーツで Well-being に繋がると感じた。 コロナ禍の頃、子どもは 1000 円でサッカーの試合のチケットを買えるときがあり、スタジアムで一人で観戦し帰宅したら録画した試合に自分が映っているかを家族で探したのを思い出した。 コロナ禍で緊急事態宣言が出て突如休校になり、自宅マンションから駅に続く道を見ると人影が全くなく、テレビや新聞でコロナに関するニュースを目にしては不安になり何が正しいのか探していた時に、ある YouTuber の動画に小池都知事が出演していて、ソーシャルディスタンスやステイホーム、3 密を避けるなど分かりやすく教えてくれている動画を沢山の人が観ていてなんだか心強いと励まされた経験から、こどもまんなかフォーラムで人気 YouTuber と小倉大臣がコラボレーションして子どもの権利条約を説明したら子どもから大人まで皆が知ってくれると思い話した。 大人も子どもも孤独を感じ、でも政府や行政、感染症の専門家の皆さんや医療従事者の皆さんが知恵を出し合い協力をしたから乗り越えられた事、テレワークや無人販売店舗を作ったり、デパートや飲食店の営業自粛、物流業やエッセンシャルワーカーは働き続けてくれたから食品や日用品をスーパーやネットで買えた事、ニュースや日曜討論を家族で観て感じたと忘れないようにしたい。 アフターコロナでは格差が広がり、ロシアのウクライナ侵攻や円安で物価が上がり皆が困っているが、班のメンバーが「地元では子ども食堂ではなく誰でも食堂という名称」と話していて、そうなったら生活困窮者が利用するイメージを払拭でき、誰でも利用しているなら本当に困っている人が利用をためらわないですむようになり、親子の笑顔を守れると思う。 子どもの居場所について、学校が休みの土曜日に区がダンススクールとプログラミング教室を無料で受けられる企画をしてくれて、学校からプリントが配られたのでダンススクールに応募し、応募が多数の場合抽選なので当たると良いなと思う。

以上